

■熱中症と脳震盪に注意を—メディカルクリニック開かれる

春のシーズンインに向け、メディカルクリニックと競技運営説明会、記録説明会が5月14日、札幌市中央区のかでる2・7で開かれ、集まった各大学の選手やスタッフたちが注意事項などに熱心に聞き入った。

このうちメディカルクリニックでは、学連のアドバイザーリーダーを務める札幌・羊ヶ丘病院の岡村健司医師が「北海道におけるアメリカンフットボール競技の安全対策」と題して講演した。学連の統計から①2017年に49件のけがが発生し、このうち脳震盪が1件、熱中症が4件あった②2003年から09年、17年の8年間で10件の脳震盪が発生し、17日間入院した選手がいたことを紹介。また全国統計で、2001年から22年までに58件の重大事故が発生し、熱中症で亡くなった道内の1人を含む10人が死亡したことも紹介した。そのうえで「脳震盪を繰り返して起こすのが頭部の外傷。正しいブロックとタックルの指導が不可欠」「発生は8月が多い。いつもと違う感じ—に要注意」として予防策の徹底を呼びかけた。

また、熱中症対策では「熱と脱水で臓器の血流が不良になり、比較的短時間で死にいたることもある怖い病気」と注意を喚起。予防策として①気温35度以上では運動中止②31～35度は嚴重警戒③28～31度は警戒と目安を示したうえで、水分を十分にとること、万が一のために深部体温を一気に下げる氷水とプールなどの用意を呼びかけた。

競技運営説明会は学連の鈴木航理事が、記録説明会は森竹俊仁記録委員がグラウンドごとのルールや、記録入力の注意点などを説明した。



メディカルクリニックで脳震盪と熱中症の危険性を紹介する岡村医師